



GODOYOK 
Eco Project

エコアクション21

2016 年度
環境活動レポート

発行 2017 年 10 月 31 日
(対象期間：2016/04/01～2017/03/31)

環境方針

環境理念

私たちは、環境にやさしい製品を提供する段ボールメーカーとして、北国の恵まれた自然を残すため、環境負荷の軽減に努めます。

行動方針

1. 環境に関する法令・規制を順守し、環境に配慮した事業活動を推進します。
2. 仕事のムダ・ムリ・ムラをなくし、省エネルギーの推進と資源の有効活用に努めます。
3. 廃棄物の分別によるリサイクル化の推進と資源の再使用化に取り組み、最終廃棄物の減量化に努めます。
4. 水資源の節減と有効活用に努めます。
5. 当社で使用する化学物質について、その適切な管理に努めます。
6. 当社で購入する物品について、グリーン購入に努めます。
7. 環境にやさしい製品の企画・提案に努め、循環型社会の実現に貢献します。
8. 環境活動を通して環境保全意識を高め、その活動結果を社外に公開します。

2008年 10月 1日 制定

2014年 4月 1日 改訂

 合同容器株式会社

代表取締役社長 日野 隆

組織の概要・対象範囲

1. 組織名および代表者氏名

合同容器株式会社

代表取締役社長 日野 隆

2. 所在地

〒061-1492 北海道恵庭市北柏木町 3 丁目 39 番

TEL : (0123) 32-4141

3. 事業内容

段ボールおよび段ボール箱の製造、加工、販売

紙加工品および包装 物流関連商品の販売、包装機械 器具の販売

<http://www.godoyoki.co.jp/>

4. 事業の規模

製品出荷額	67億7500万円
主要製品生産量	74,612千m ²
従業員数	155名
敷地面積	84,800 m ²

5. 対象範囲 全9箇所 認証登録番号 0003750

本社・札幌事業部： 北海道恵庭市北柏木町 3 丁目 39 番

TEL : (0123) 32-4141

函館事業部： 北海道函館市港町 1 丁目 32 番地 34 号

TEL : (0138) 42-0101

青森事業部： 青森県青森市大字油川字柳川 92 番地

TEL : (017) 788-2121

《営業拠点》

東京営業所： 東京都千代田区内神田 2-8-14 高橋ビル 5 階

TEL : (03) 3251-4185

札幌営業所： 札幌市白石区菊水 6 条 3 丁目 1 番 1 号

TEL : (011) 841-4185

旭川営業所： 旭川市東鷹栖 2 線 1 1 号

TEL : (0166) 57-2431

釧路営業所： 釧路市海運 1 丁目 1 番 9 号 埠頭ビル 1 階

TEL : (0154) 24-7136

北見営業所： 北見市東相内町 5 6 0 番地の 5

TEL : (0157) 36-2431

帯広営業所： 帯広市西 3 条南 28 丁目 17 番地 9 雅ハイム 1 階

TEL : (0155) 27-1341

6. 環境管理責任者及び担当者連絡先

環境責任者： 取締役生産本部長 菊池 勝利

事業責任者： 札幌事業部長 住岡 潤二

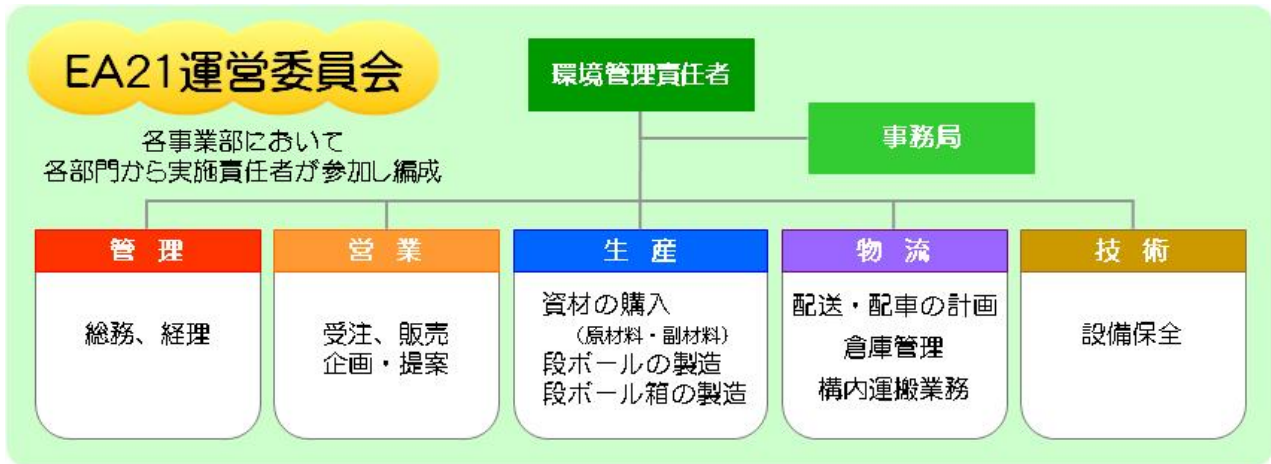
函館事業部長 佐藤 明

青森事業部長 吉田 学

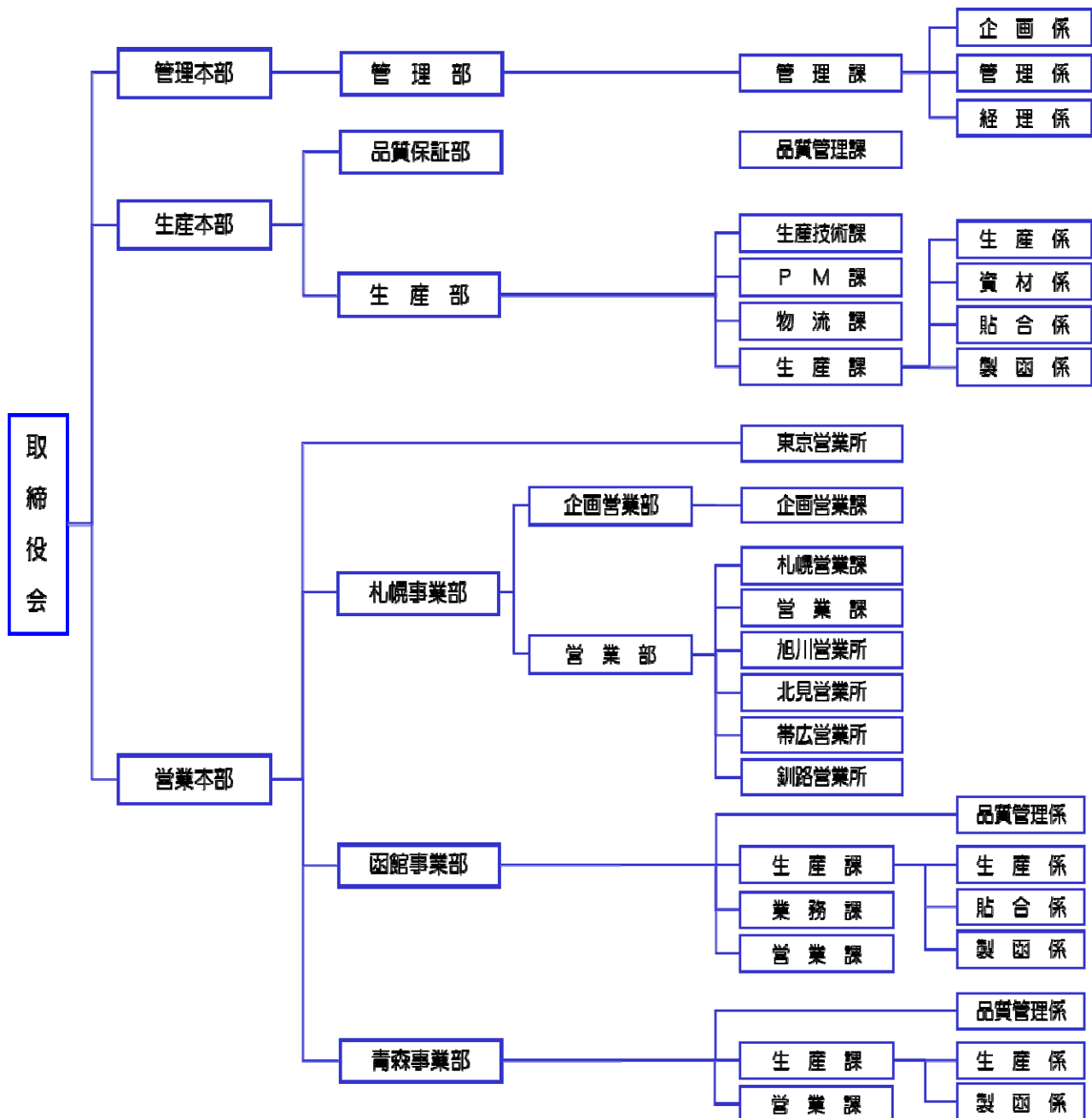
事務局： 品質保証部長 内藤 信二

TEL : (0123) 33-7198

7. 運営組織



8. 会社組織図



環境に配慮した製品の紹介

当社のホームページで紹介しています。

<http://www.godoyoki.co.jp/product/>

■ 段ボールシート/ケース

段ボールは強度と使いやすさを兼ね備え、環境にもやさしい理想的な包装素材です。

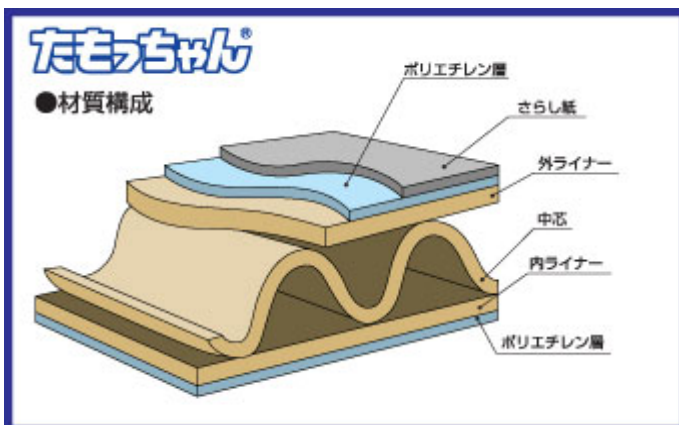
さらに、その優れた印刷特性によって、商品イメージをアピールし、様々な情報を伝えることができます。当社では、この段ボールの特徴を生かし、商品イメージを高めて安全に保護 輸送できるよう最適なパッケージを提供いたします。

用途と目的に合わせて段種も A 段、B 段、C 段、E 段、AB 段と幅広く取り揃えています。



■ たもっちゃん®

たもっちゃんは、特殊耐水原紙を使用した機能性段ボールで、耐水性と鮮度保持効果をプラスしました。従来の耐水段ボールと異なり、使用後にリサイクルが可能で地球環境にやさしい包装素材です。



たもっちゃんの総製造販売元は、日本トーカーパッケージ株式会社であり、当社は北海道地区の製造委託販売元です。

■ バイアスエコパネル

段ボールとは異なる独自構造の次世代紙パネルで、地球環境にやさしい新素材です。バイアスエコパネルを特徴付けているのは、そのバイアス（斜交）構造の中しんにあります。

交互に組み合わされた中しんは強固な連続結合を形成しており、この両面に特殊紙を貼り合わせてパネルに加工しました。その特長として、非常に軽量、優れた強度、高い断熱性能、優れた加工性、環境にやさしい、人に安心、などの多くの特質を備えています。

今後の用途として、建築関連、家具 建具、イベント・ディスプレイ、包装 物流などの幅広い分野での応用が期待されます。



環境目標

中長期の目標

2014年度を基準年として2015年度からの中長期（3年間）の目標値である。

削減率を計測する上で、原単位での比較が望ましいものについては、主要製品である段ボールの生産平米当りの使用量または排出量として算定した。

環境負荷項目	単位	2014年度 基準年	2015年度	2016年度	2017年度
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂ /千 m ²	77.86	77.08 1%削減	76.31 2%削減	75.55 3%削減
電力	kg-CO ₂ /千 m ²	37.77	37.39 1%削減	37.02 2%削減	36.65 3%削減
C重油	kg-CO ₂ /千 m ²	28.32	28.04 1%削減	27.76 2%削減	27.48 3%削減
LPG	kg-CO ₂ /千 m ²	2.75	2.72 1%削減	2.70 2%削減	2.67 3%削減
廃棄物（古紙の発生率） 札幌事業部	%	10.43	9.75	9.75	9.75
函館事業部	%	12.32	前年比削減	前年比削減	前年比削減
水資源（上水+地下水）	L/千 m ²	0.48	前年比削減	前年比削減	前年比削減

※ 電力の排出係数[kg-CO₂/千 kWh] 北海道電力：0.688 東北電力：0.573 東京電力：0.496 を各年度に採用する

環境活動計画

- 2009年 6月 本社 札幌事業部（営業所除く）で EA21 を認証 登録
- 2009年 10月 マネジメントレビューにてサイトの拡大を決定し全社展開を開始
- 2010年 1月 営業拠点においては、環境負荷データの把握を中心に活動を開始
EA21 ガイドライン 2009 年版への対応
- 2010年 5月 全社（合計 9 拠点）で認証取得

取組み主要項目

- 使用エネルギーの削減
- 廃棄物の削減、古紙発生率の低減
- 水使用量および排水量の削減
- 環境負荷に配慮した製品の購入（グリーン購入）と販売の推進
- 化学物質使用状況の把握

目標項目（目標値）	活動内容
CO₂排出量の削減 (m²原単位前年対比1%減)	CO₂排出に起因するエネルギーの消費（投入）量の削減
電 気	稼働率の向上。節電、空調温度基準設定。 クールビズ、ウォームビズの推進。
C 重油	稼働率の向上。低温貼合。配管の断熱加工。
L P G	リフト走行マナーの励行。食堂への省エネ協力要請。
灯 油	焼却炉の稼働を監視。空調温度基準設定。ウォームビズの推進。
ガソリン	運行日報で燃費管理。エコドライブの推進 励行。 エコカーの検討。
配送効率の向上	配送効率を向上するような製造計画の作成。 効率的な配送計画の作成。
廃棄物の削減とリサイクル化推進	ゴミを分類（定義）し、ゴミの分別を徹底する。
古紙発生を削減	古紙発生率を9.75%以下に設定。□ス削減会議の定期開催。
コピー用紙使用量の削減	電子文書の活用。裏面利用など再利用。
廃棄コピー用紙のリサイクル化	焼却処理をやめリサイクル化。 機密文書はシュレッダー処理してリサイクル。
飲料容器のリサイクル化推進	飲料容器の分別処理。 PET ボトルキャップおよびリングプルを回収し、団体へ寄付。
排水量の削減	節水に努め排水量を削減する。
上水道使用量の削減	手洗い トイレの節水喚起。食堂への節水協力要請。
地下水使用量の削減	貼合糊着量の削減。ボイラー冷却水の適正使用量の設定。 インキ洗い水の削減。
環境配慮製品の購入と販売	
グリーン購入の推進	事務用品エコ製品購入の啓蒙 推進。
B E P の売上UP	DDPC 事業において環境配慮素材である BEP の採用率を UP。
顧客への提案	リデュースにつながる材質、寸法、形式の提案。 環境に配慮した素材の提案。
化学物質使用状況の把握	
SDS の情報整備	原材料・副材料をはじめとする使用資材の SDS の入手・整備。

主な環境負荷の実績

過去3年間の主な環境負荷

《全社の負荷データ》

環境負荷項目	単位	2014年	2015年	2016年
二酸化炭素排出量 ※	kg-CO ₂	6,334,965	6,602,141	6,242,578
電力	Kwh	4,500,415	4,724,380	4,425,472
重油	KL	962	996	965
LPG	Kg	74,457	79,117	73,426
廃棄物（再生古紙含む）	ton	5,971	6,176	5,968
排水量	m ³	10,122	10,955	11,087
上水道（使用量）	m ³	3,745	4,178	3,731
地下水（使用量）	m ³	35,228	37,696	38,975

※ 電力の排出係数[kg-CO₂/千 kWh] 北海道電力：0.688 東北電力：0.573 東京電力：0.496 を各年度に採用する

環境目標と実績

2016年度（16/04/01～17/03/31）実績

は目標達成○。目標未達×。

環境負荷項目	単位	2015実績	2016目標	2016実績	判定/達成率
二酸化炭素排出量※	kg-CO ₂ /千 m ²	78.67	76.31	78.08	× 97.7%
電力	kg-CO ₂ /千 m ²	38.46	37.02	36.75	○ 100.7%
C重油	kg-CO ₂ /千 m ²	28.84	27.76	29.42	× 94.4%
LPG	kg-CO ₂ /千 m ²	2.83	2.70	2.75	× 98.2%
廃棄物（古紙の発生率） 札幌事業部	%	10.54	9.75	10.68	× 91.3%
函館事業部	%	12.24	前年比削減	12.09	○ 101.2%
水資源（上水+地下水）	L/m ²	0.50	前年比削減	0.53	× 94.3%

※ 電力の排出係数[kg-CO₂/千 kWh] 北海道電力：0.688 東北電力：0.573 東京電力：0.496 を各年度に採用する

環境活動の取組結果とその評価、次年度の取組について

使用エネルギーの削減

主要なエネルギーである、電力、重油、LPG で前年より削減することができた。前年は製函工場建て替え工事により作業環境が変則的となっていたが、工事も無事に完了し、新しい作業環境での作業効率が向上した結果である。

電気の使用量について

電力消費量については、毎年増加傾向であったが全事業部にて削減することができた。営業所については、ほぼ前年並みの推移となっている。

【次年度の取組】

主要設備では稼働率向上に努める。また、節電をすすめ Web デマンド監視装置を継続して活用し、適時契約電力の見直しを行い、新エネルギーへの切り替えも検討する。各営業所では、待機電力の削減活動やNO 残業DAY の推進を行う。

廃棄物の削減、古紙発生率の低減

廃棄物の総重量は前年より削減することができた。しかし、古紙発生率について函館事業部は改善されているが、札幌事業部にて前年より増加している。今後は更に、原材料となる原紙の置き場の見直しを行い、原紙キズが発生しない様な作業環境を整えることで、原紙の皮むき量を削減する。

【次年度の取組】

生産工程でのロスの削減に努め、更に古紙発生率の低減を進める。

水使用量と排水量の削減

札幌事業部において地下水の使用量が増加している。主要設備入替えにより、冷却装置が水冷式になったため増加している。主要設備以外でも使用量を減らす努力をする。

【次年度の取組】

継続的に水の使用量を監視し、主要設備以外でも使用量を減らす努力をする。

環境負荷に配慮した製品の購入（グリーン購入）と販売の推進

＜グリーン購入＞

事務用品については web にて購入しており、グリーン購入率については毎月支払い時に集計され結果が分かるようになっている。そのため各事業所・営業所の購入担当者は、出来る限りエコマーク付きの製品を購入するように心掛けている。

＜BEP 製品の売上 UP＞

DDPC 事業においては、環境配慮素材である BEP=バイアスエコパネルをディスプレイ用の棚（=什器）の材料として使用し、「環境にやさしく、リサイクル可能な、軽量パネル」という商品の特徴を生かした商品の提案を推進する。

《環境配慮製品の顧客への提案》

当社が製造する段ボールおよび関連製品は環境に配慮した製品といえる。したがって、段ボール製品の売上が伸びるような提案をお客様に提案し採用していただき喜んでもらうことで、環境に配慮した製品の普及活動につながる。

営業部門では顧客提案の件数および採用率を目標に掲げ、積極的に提案型営業をしている。

化学物質使用状況の把握

購買品の SDS のデータ管理を継続して実施。化学物質が含まれている購買品について、今まで生産管理情報としてデータ集計していた原単位管理を環境活動に含め、原単位を減らすことが環境負荷の軽減につながることを意識し、コスト意識をもって環境活動を行っていく。

毎年恒例の環境活動

エコ標語募集でエコ意識を向上!



避難・消火訓練で緊急時の対応を身に着ける



環境関連法規等の遵守状況の確認、違反・訴訟の有無

環境関連法規の遵守状況

当社に該当する環境関連法規についての遵守状況をチェックした結果、違反はなかった。

訴訟等について

事例はない。

代表者による全体評価と見直し

札幌事業部では製函工場の建て替え工事も完了し、作業環境が安定し主要エネルギーの使用量を削減することができた。函館事業部、青森事業部はエネルギーの使用量が安定しているので、引き続き削減活動を継続する。

今後は、全事業部にて燃料・電力の無駄な消費を無くす様な努力し、生産工程におけるロスの削減を行い廃棄物（古紙発生率）の低減を進める。